

平成28年5月4日  
九州地方整備局  
22:00現在

## 阿蘇大橋付近の西側斜面における崩壊箇所の 調査結果について

熊本地震により崩壊した阿蘇大橋付近の西側斜面（立野地区）において、4月30日～5月4日にかけて、専門家による現地調査を実施した結果を発表します。

（※当該結果は、南阿蘇村、熊本県にも適宜報告しております。）

### <崩壊箇所>

南阿蘇村 立野地先

（※阿蘇大橋崩壊箇所から西側へ直線距離で約400m）

### <斜面崩壊の規模>

- ・崩壊長（斜長）約320m、崩壊幅（水平）約100m
- ・最大崩壊深（鉛直）約8m、平均崩壊深（鉛直）約3m
- ・亀裂については、長さ数10m、幅2m程度の規模のものを数カ所確認
- ・崩壊後の斜面上には、黒ボク※1を主体とする土砂が存在
- ・斜面上部には、不安定な土塊が存在

### <斜面の状況>

- ・斜面上部の不安定な土塊については、降雨や余震等により崩壊する可能性がある。
- ・斜面上に残っている土砂については、今後の降雨により流出する可能性がある。

### <今後の留意点>

- ・降雨による土砂流出が発生する可能性があるため、土砂災害警戒情報※2が出された場合は、十分な注意が必要。
- ・斜面上部の不安定土塊については、今後の挙動を監視する対策が必要。（伸縮計等の設置）

- ※1：主として火山灰を母材とし、良好な排水条件における母材の風化と平行して有機物が集積したことによる黒い表層をもつ土壌
- ※2：大雨警報が発表されているとき、防災対策をさらに進めるため、市町村長が避難勧告等を発表する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、気象庁と都道府県が共同で発表する警報。

九州地方整備局としては、今後も熊本県・南阿蘇村と連携しながら支援してまいります。

**【現地調査体制】**

土木研究所 土砂管理研究グループ 水野上席研究員、土砂災害対策アドバイザー班（5名）

**【問い合わせ先】**

国土交通省 九州地方整備局 災害対策本部

企画部 火山防災対策分析官 永吉 修平 (090-4997-1337)

電 話：092-414-7301 (直通)

(永吉が不在な場合は、広報班まで申し付け下さい。)

写真1 阿蘇大橋付近の西側斜面の崩壊箇所全景（H28.5.4 はるかぜ号撮影）



写真2  
崩壊箇所を東側より撮影  
(H28.5.4 はるかぜ号撮影)



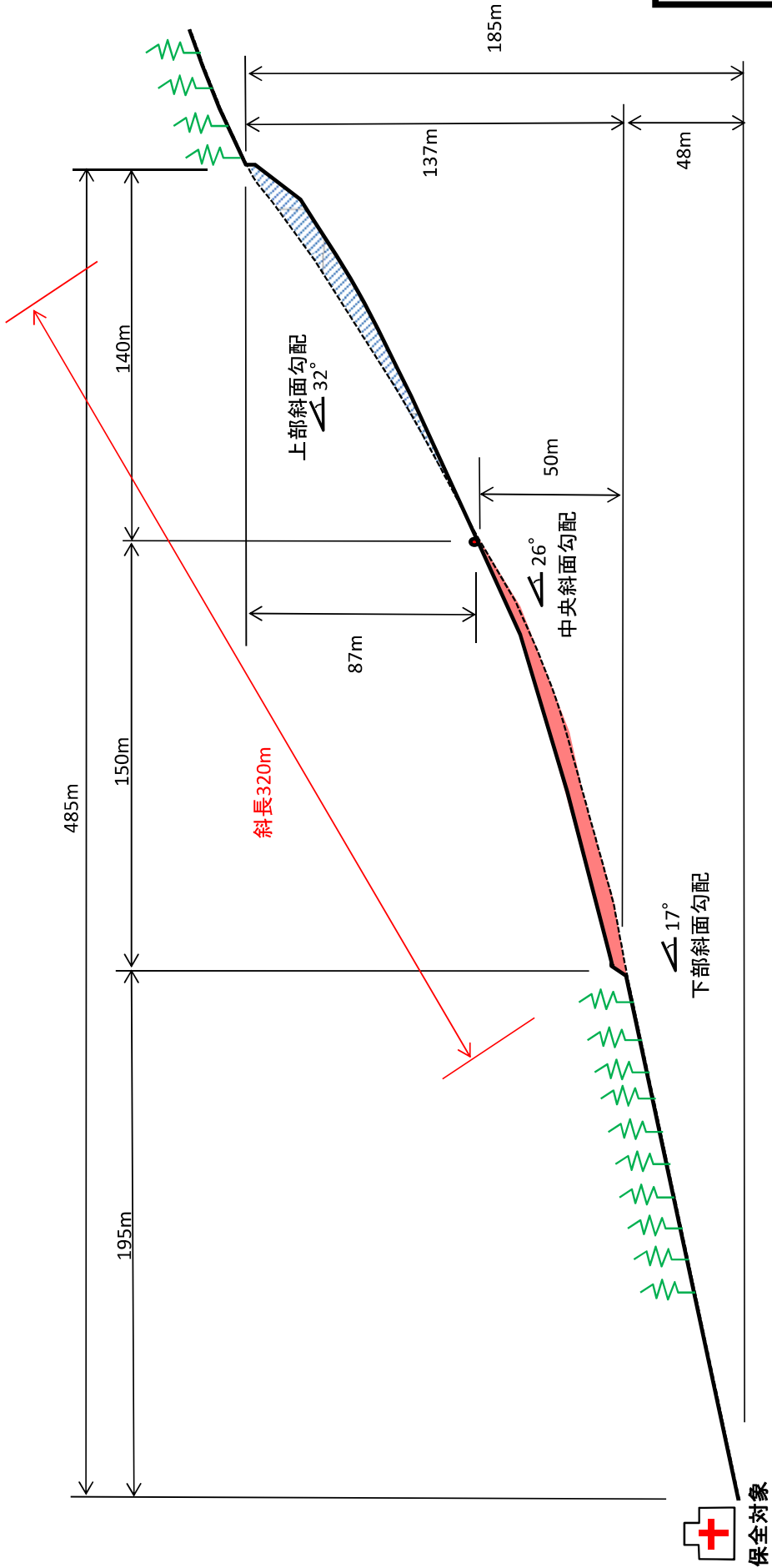
写真3 斜面崩壊の状況（上部より望む）



写真4 斜面上部の不安定土塊の状況（下部より望む）



写真5 崩壊斜面に残る流木の状況



阿蘇大橋付近の西側斜面の崩壊箇所 上部亀裂状況

H28年5月2日  
調査状況写真①



H28年5月2日  
調査状況写真②



H28年5月2日  
調査状況写真③

